

## 令和7年度 第3回 丸塚中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年11月18日（火） 13時30分から15時40分まで
- 2 開催場所 丸塚中学校 多目的ルーム
- 3 出席委員 稲垣 邦圓、尾上 弘、名倉 善郎、酒井 里江子、  
鈴木 厚子、湯山 紀美代、青木 優衣、劉 志奈、  
田嶋 節子（学校支援コーディネーター）
- 4 欠席委員 なし
- 5 学校 渡瀬 益章（校長）、山下 孝二（教頭）、平野 大輔（CS担当教諭）  
石津谷 訓子（CSディレクター）
- 6 教育委員会 加藤 大輔（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 石津谷 訓子
- 9 議長の選出

司会の教頭山下から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、尾上委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

### 10 協議事項

- (1) いじめ認知とその対応について

### 11 会議記録

司会から、委員総数9人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

- (1) いじめ認知とその対応について

平野から、いじめ対応についての資料説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ いじめに悩んでいる子が多い。その子達が10年経った時に、あんなことがあつたが、乗り越えられて良かったと思えるようにしてあげたい。また、保護者の理解が学校側の認識と乖離していることもある。（尾上委員）
- ・ 以前のような肉体的ないじめではなく、言葉やネットでのいじめが増え、内容も変わってきていて難しい問題だと思う。（田嶋委員）
- ・ 学校側から見て、スクールカーストのようなクラス内格差を感じるか。（青木委員）  
→ 最近は、強い子がいじめっ子、弱い子がいじめられっ子という事ではなく、加

害者と被害者が逆転したりする。(渡瀬校長)

- ・ いじめといじりの区別も難しい。いじられキャラとして、クラスの人気者ではあるが、本当は嫌な気持ちになっているのではと危惧することもある。(青木委員)  
→ 年2回行っているいじめ認知アンケートは、本人がいじめを訴えていなくても、答え方によっては状態が良くない等の判定ができる。アンケート後は、全員と二者面談をしている。いじられキャラの生徒が、強がって訴えられないこともあるかもしれないが、教師は信頼関係を深めて、より生徒の本心に触れられるような資質が求められていると思う。(渡瀬校長)
- ・ いじられキャラであることは本人も分かっている。線引きとキャパシティがあり、同じことをされて受け流せる相手もいるが、親しくない子に同じことをされて嫌な気持ちになることもある。いじってしまった子に関しても、この子は良かったのに、別の子にはいじめと認定されたとなってしまうことがある。(劉委員)
- ・ いじめを受けた時、同じことをされて受け流せる子と、そうでない子がいるというのは、その感情にも向き合う事が必要だと思う。好き嫌いで動いている自分のものさしに対しても指導して欲しい。(鈴木委員)  
→ いじめと認定した場合、被害者だけでなく加害者にも話を聞く。その時、初めて相手が嫌な思いをしていたことに気付く子もいる。初期段階で認知し、いじめたからいじめっ子というレッテルを張るのではなく、嫌な思いをする子もいるから気を付けようという指導をしている。(渡瀬校長)
- ・ 中学生の人間関係は失敗を通して成長していく。重大化しなければ、良い教育の機会になると思う。生徒の話す力、聞ける力を身に付けさせて、対話力を上げれば解決できるようになると思う。人に話すことによって、自分の心が晴れることがある。学校の思いを、保護者に伝える方法があれば良いと思う。(尾上委員)
- ・ 生徒からでなく、保護者からいじめの訴えがあった時は、学校はどのような対応をしているのか。(青木委員)  
→ 丸塚中学校では週1回の会議の他、その対応では間に合わない時は、緊急いじめ対策委員会で対応することもある。学年や部活等関係している職員で、これからどのような指導をしていくかを話し合い、すぐに対応していく。(渡瀬校長)
- ・ 解決まで、長引くことはないのか。(青木委員)  
→ 被害者側が大事にしたくない、また加害者の報復を恐れて相手に指導しないで欲しいと言われると長引くケースがある。解決まで時間が掛かる時は、途中経過も報告する。(渡瀬校長)
- ・ 保護者の立場で、生徒間のトラブルを知った時、どのタイミングで学校に伝えれば良いか。(青木委員)  
→ なるべく早い方が良い。生徒が我慢している時間が長ければ、それだけ苦しむ時間が長くなってしまう。(渡瀬校長)
- ・ 過去にいじめられていた子の作文を読んだことがある。「誰にも知られたくない辛い気持ちを、母親だけに紙に書いて伝えた時、母親が『私はあなたの味方よ。』と何

度も言ってくれた。私はその言葉で乗り越えられた。」とあった。知られたくない気持ちと、でも誰かに分かってもらいたいという微妙な気持ちの葛藤があるのだと思う。（尾上委員）

- ・ 寄り添い、共感することも大切だと思う。（酒井委員）
- ・ 校外でいじめのような行動を目撃した時、学校に伝えて良いのか。伝える方が良いのなら、地域としてはそういう心掛けを共有出来たら良いと思う。（鈴木委員）
- ・ ふざけているのか、いじめなのかの判断が難しい。いじめでないかもしれないのに、学校に報告しても良いのか。（湯山委員）
  - こんな様子でしたという連絡でも構わない。（渡瀬校長）
- ・ いじめにあった子は、親や先生、友達に伝えている子は多いのか。（稻垣委員）
  - 多い少ないとは一概には言えないが、小さな事でも声を挙げやすい環境にはあると思う。（平野）
  - ネットなどでの見えにくいいじめは、学校も親も気づけず、表面化した時には重大化していることもある。ただ、中学生は担任だけでなく教科担任の先生ともつながっているので、そこから情報が挙がることもある。（渡瀬校長、山下教頭）
- ・ いじめをしてしまう子は、不満を抱えていて、心が安定していない場合もあるので、学校で毎朝やっている黙思を続けて、心を落ち着かせる事も大切だと思う。話しやすい先生が身近にいるのも良い。（稻垣委員）
- ・ 保護者へは、いじめアンケートを通して現状を伝えてはどうか。地域には、子供たちが良くない事をした時に、誰にも何も言われないという無関心な環境を作つてはいけない事を伝えて行きたい。（尾上委員）
- ・ いじめの概要を地域に周知するのはなかなか難しいが、私たち協議会の委員は、他の地域の組織に籍を置いている方も多いので、この場で熟議した内容を、他の組織にも伝えて行くのはどうか。（名倉委員）
- ・ 健全育成会の講演会の前後に時間を貰って、地域の人や保護者に周知してはどうか。（稻垣委員）

## ○ その他報告事項等

教頭山下から、第4回運営協議会は令和8年2月17日（火）に開催予定である旨の報告があった。